

首都機能移転の目的と効果について 二一八八〇字

お手元に、「首都機能移転の論点」と書いた私のプリントが配られておりますでしょうか。私は、きょう、主として三点についてお話し申し上げたいと考えております。

第一は、「首都機能移転の目的と効果」でございます。これは既に国会でも長期に議論されておりますので皆さん御案内のとおりだろうと思いますが、改めて申し上げておきたいと考えております。

まず、国会等首都機能の移転を行います目的と効果の第一は、日本の本当の改革を決定的に進め、新しい時代に対応した日本をつくるということでありませぬ。

日本の歴史を見ますと、各時代が首都機能の所在の場所で呼ばれております。奈良時代、平安時代、鎌倉時代、室町時代、安土・桃山時代、江戸時代、こう呼ばれておるわけでございます。このことは、首都機能が移転すると必ず時代は変わった、また、移転しない間は絶対に時代が変わらなかつた。

平安時代は三百九十八年続くわけでございますけれども、その間にいろいろな問題が起こって、反乱が起こったこともございませぬ、飢饉の起こったこともありませぬ、最後にはうちもさつちもいかなくなりますけれども、それでも平清盛の力をもってしても変えられなかつたのです。それで、清盛も最後には六波羅遷都というのを考えるのですが、彼の寿命は尽きました。

ところが、鎌倉時代になると一遍に世の中は変わってしまった。

首都機能の移転ことに変わりました。特に、江戸時代から近代日本になるとき、首都機能が約十年間江戸から京都へ移ります。だから、幕末の話というのはすべて京都を中心に起こっております、あの間將軍も京都に移っておりますして江戸にいなかつたのですね。これが大改革ができた大きな原因でございました。日本の歴史の中に首都機能が移転しないで根本的な改革ができたという例はまずございませぬ。

したがって、やはりここは、日本を抜本的に改革し、今言われております六大改革を実現するためにも、首都機能の移転が必要かつ不可欠ではないかと考えております。

第二番目は、東京一極集中の是正でございます。

政治、行政、経済、文化、あらゆる機能が東京に集中しておりますために、日本の経済は、一九七〇年ごろを境といたしまして大変高コスト経済になりました。また、文化、言論の一元化、地域個性の喪失等が進んでおります。このことは、日本が規格大量生産の国である場合には非常に有効に働いたのです。だから、自動車産業や電機産業に代表されますような規格大量生産のものは非常にうまくいったのでありますが、創造性と多様性を発揮する上では大きな欠点になってまいりました。

また、現実の生活といたしましても、東京圏の地価上昇、通勤距離の延長、ごみ処理・水供給の限界、国際機能の流出等が起こっております。バブル崩壊以来、ここ三年ほど、首都圏からの人口の社

会減が起こっている、流出の方が多くなっているという説がございますけれども、これは、北関東南部、筑波などへの移転が、人口増加がありまして、まさに恐れている首都圏の、東京圏の拡大現象、過大化現象が生じているのではないかと考えられます。

また、日本経済の停滞と少子化によりまして相対的一極集中は非常に進んでおりまして、最近の新しい通信網の集中も非常に極端であります。

第三番目には、文化の多様化と情報の公平性の実現でございます。地域文化が、互いに地域間で文化的創造の競争というのが必要でございます。特に東京という超巨大都市に行政機能があります場合には、行政機能に入ってくる世論や知識というのが東京情報に非常に偏りまして、一票の重みというのは先生方よく御体験でございます。しょうが、一言の重みというのが非常な格差になっております。

現在、広域情報というものが東京では一人当たり十七万円ぐらいの発信力がありますが、三十以上の県はほとんどゼロであります。大阪府あたりで一万数千円、だいたい十分の一、三十ぐらいの県はほとんどゼロというような値になります。このため、行政公務員の情報東京情報に非常に偏っております。

ちなみに申しますと、アメリカではワシントンが経済、文化の中心とは別にあるだけではないに、全米五十州でその州の最大の都市に州の庁、州庁があるというのはほとんどございません。その最大の理由は、公務員が特定の地域の情報に偏ることでございます。今日本では大変そういう状況が起こっております。

第四番目には、国家、国民の安全性でございます。

これは、阪神大震災のような大規模震災が生じたときに、現状では対応し切れないという問題があります。特に国家公務員も被災者になる場合、救済が極めて困難になります。これは日本列島どこでも地震が起こると言いますが、分散することの効果というのは非常に高いのでございまして、国が直ちに救済活動に入れる状態をつくるべきであると思えます。これを避けるために東京を改造しようと思えますと、どうしても五十年以上の歳月と百兆円以上の費用がかかってしまいます。

五番目には、国民の士気の向上でございます。今日本は恐るべき閉塞感にとらわれておりまして、若い人たちも、日本は変わらないという考え方を持つようになりました。この日本は変わるんだ、新しくなれるんだという、まさに時代を画するという意識を国民に与えるために、この首都機能の移転という極めてわかりやすい現象が必要だろうと思っております。全国的に新たな発想と投資を生み出し、新しい産業と文化を引き起こすきっかけになるだろうと思えます。

六番目には、全国地域構造の改革であります。

現在の地域構造は東京一極集中型にできておりまして、東京へ来るため、東京から行くために通信機能も交通機能もできております。このために、地方対地方という情報機能、通信機能、交通機能が非常に脆弱でございます。このことは、先ほど申しました国家の安全性にも大きくかわりますが、同時に、情報の選択が東京だけで行

われるということ、大きな問題が生じております。

例えば、飛行場にいたしましたしても、東京に飛行場で行く必要のないところにはつくられていないのが現状でございます。例えば群馬県や静岡県には飛行場がないのでございますが、ネットワークで考えますと、九州に行く人も、北海道に行く人も、飛行機に乗って群馬県にも静岡県にも行けるのがいいことではありますが、そういう日本全体の効率的なネットワークができるだろうと思えます。これを実現いたしますと、公共事業の効果が非常に高くなって、日本全体の経費が非常に節約できると思えます。

ちなみに申しますと、現在日本の民間企業、総交通出張費というのは大変高額になっております。旅費、交通費というのが非常に高額になっておりまして、アメリカの二倍近くかかっているのですが、これも東京一極集中で日本の効率がいかに悪くなっているかの象徴だろうと思えます。

最後につけ加えたいと思えますのは、第七番目の効果といたしまして、最新技術の集積であります。

二十世紀は軍事技術が世界をリードした時代でございましたけれども、二十一世紀には都市環境技術が世界をリードすると思えます。日本のような豊かな国が首都機能の所在地を建設するとなりますと、世界的にハード、ソフト両面からの都市技術、環境技術が集まりまして、世界に誇れるような技術集積ができるだろうと思えます。これができるようなやり方、現在の既存の都市にかかわった諸規制を超えたやり方で大いに技術を集めたいと思えます。これができます

と、日本は大きなバーゲニングパワーを持つ、世界をリードするよ
うな技術集積を持てるのでないでしょうか。